

[報告] 歴史地震研究会に参加して

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 黒崎ひろみ

§1. はじめに

私は2006年4月より徳島大学環境防災研究センターに技術補佐員として所属し、本年1月から徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部に助手として所属している者です。

歴史地震研究会に2006年9月15日、16日と初参加させて頂きました。貴研究会には、大変ミーハーで恐縮ですが、著名な先生方が在籍され、それだけでも参加させて頂けて良かったと思うほどでした。私が感じたことを正直な感想として、書かせて頂きます。

§2. 研究会の実施場所について

私と中野晋助教授は、徳島県からの参加ということ、また滅多に旅行することのできない、東北岩手県しかも過去の津波被害に関する石碑や資料がたくさん残っている大船渡で研究会が開催されるということで、9月13日に徳島県を出発し、9月14日に大船渡の見学に参りました。研究会が開催されるホテルに宿泊し、光栄にもその日に研究会に参加される皆様とともに食事会に参加させて頂きました。私は外国の学会発表以外で、研究会の実施場所と同じホテルに泊まった経験が無く、あまり実感が沸きませんでした。しかし、非常に便利であり研究会に集中することが出来ました。これもホテル側の皆様のご協力や、会場の決定等に多大なお時間を費やされた事務局の皆様のお陰と、感謝に堪えません。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

§3. 研究会の様子

貴研究会の会員でおられます皆様は、普段メディアを通じてお見かけするような著名な皆様ですので、当然ながら研究会のレベルは高く、ディスカッションも活発で、私としては大変面白く、また勉強になりました。自分の発表は初日の2番目で(光栄なことに都司嘉宣先生の次でした)、普段はまったく緊張しない私ですが、著名な先生方に発表を聞いて頂けることに嬉しすぎて少々緊張致しました。まだまだ発展途上の研究であるにもかかわらず、ご指摘・ご指導いただいたことにも感動致しました。

自分の発表はさておき、貴研究会の発展的な議論や最先端の研究を拝聴できましたことは、自分

にとって最大の成果でありました。参加者の皆様の多岐に渡るご専門から繰り上げられる議論は、この研究会の名物とも言えるものでした。さらに、決して他研究を否定するような議論はされず、参加者の皆様の向上心を垣間見た気が致しました。

§4. 初日発表後の懇親会において

どなたかとお話できれば幸いと、私も懇親会に参加させて頂きました。お料理は(関係ないかも知れませんが)東北の幸らしく、新鮮な魚介類を中心とした、見た目にもすばらしいお料理でした。しかし、初めての場であり、しかも著名な皆様との会食ということで、ここでも少々気後れしてしまい、お料理になかなか手をつけられずにおりました。そのとき、鹿島建設の武村雅之さま(著書・論文の上でしか存じ上げておりませんでした)から光栄にもお声をかけていただき、しかもお名刺まで交換させて頂きました。私の研究発表についてご指導賜り、今後の研究の発展についてご議論頂き、内心ひそかに「ラッキー」と思っていました。その他の皆様とのご会食もお楽しみにされておられたと存じ上げますが、かなり長い時間私のお話にお付き合い頂きました。本当にありがとうございました。この会話をきっかけに、多くの参加者の皆様とお話する機会を得ることができ(食欲も復活し)、とても楽しいひとときとなりました。その後、ミーハーな私たち(本学の学生も含めて)は、多くの方とお名刺の交換をさせて頂き、記念撮影まで応じて頂きました。皆様、ありがとうございました。

§5. おわりに

貴研究会のアットホームで、本当の心温まる皆様のご指導に甘えて、楽しく充実した私の2日間は、「公開フォーラム」の参加と、そこで交わされます皆様のご議論を勉強させて頂くことで終了致しました。所用で最終日の見学会に参加出来なかったことだけが、本当に悔いに残ります。次回は見学会もぜひ参加させていただきたいと切に願っております。

最後になりましたが、私とともに貴研究会に初参加致しました、井若和久、田邊晋(ともに村上仁士教授研究室学部4年生)の感謝の意も含め、深く皆様にお礼申し上げます。